



自分の思いを表現する



園長 原田 幸子

いよいよ2学期が始まりました。8月も暑い日が続きましたが、ご家庭ではどのような夏をお過ごしになったでしょうか。園では、熱中症や感染症対策に気を付けながら、水に触れて遊ぶ機会を設けたり、柳町小学校や地域の皆様のご協力をいただき、小学校体育館を長時間使用したりして、保育を行いました。また、園舎移転に向けて、新園舎に持って行く物と廃棄する物を区別し、準備を進めています。棚の奥を整理することで、新たな教材の発見もありました。

保育者にとって、夏には様々な外部研修会が設けられており、貴重な学びがありました。私自身は、東京家政大学の森田浩章先生の「今後一層AIが様々な分野で活用されるようになり、職種も変化する時代が来るが、保育という仕事が、AIでは最も代用が難しいと言われている」というお話から、生きる力の基礎を育む幼児期の教育、保育の重要性を改めて感じることができました。また、文部科学省 幼児教育課 教科調査官の小久保篤子先生から、「幼児自身の表現しようとする意欲を受け止め、様々な表現を楽しむことができるようにすることの大切さ」を教えていただきました。

先日、子どもたちの育ちに感心させられる場面がありました。4歳児クラスのAさんとBさんが、1冊の絵本の取り合いになり、それぞれが「先に読んでいたのは私だから返して!」「今読んでいるのは私だから、待っていて!」と大きな声で言い合っていました。担任は、ゆったりとした口調で、「Aさんはそう思ったのね。Bさんはそういう気持ちなのね」と話しながら、二人の気持ちを受け止めていました。周りでその様子を見ていた数名の子どもたちは、「二人で一緒に見たらいいんじゃない」「Aちゃんが読み終わるまで、Bちゃんは他の絵本を見て待っていれば」「どっちがお姉さんになって待てるかな」「じゃんけんで決めたら」など、自分の考えを言ったり、二人に語り掛けたりしていました。もし、担任がトラブルの解決を急いでいたら、このような姿は見られなかったことでしょう。日々の保育の中で、一人一人が自分の思いを素直に表現できるように配慮していることが、成長につながっています。

自分の思いが受け止められているという安心感が、表情や動き、言葉で伸び伸びと表現する姿につながります。2学期も、豊かな経験を通して子どもたちが心を動かし、自分らしく表現することができるようにしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

